

外国人と日本人とが、ともに豊かに生きる地域社会を!

ハロー フレンズ



2013年 **12**月号(隔月刊) 第129号

富士見市 平成25年 国際交流フォーラム開催

広げよう!! み～んな仲良し!

**日時：11月10日(日) 場所：ふじみ野交流センター
主催：富士見市・富士見市教育委員会・富士見市国際友好協会**

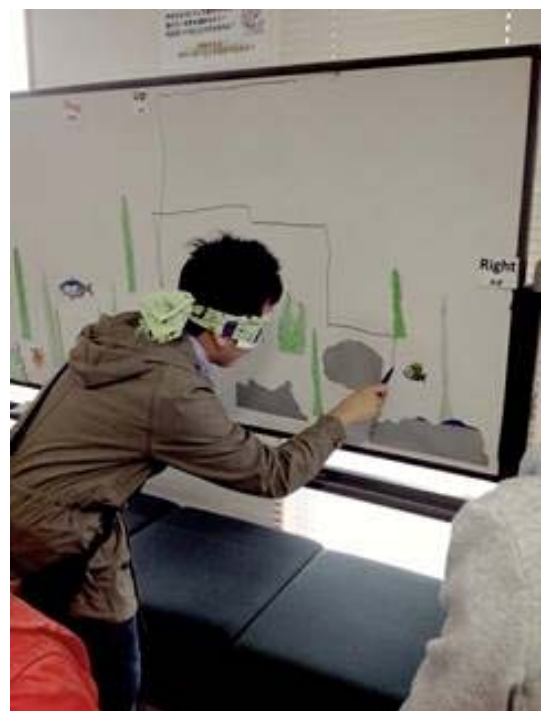
国際交流フォーラムは、民族衣装の試着や生花体験などの「体験と交流のコーナー」、世界の歌や踊りなどの「在日外国人の主張・アトラクション」の二部構成で実施し、毎年外国籍市民との交流を推進しています。

★ 楽しかったよ! 外国のゲーム ★



「Jackstone」は、フィリピンの手遊びゲームです。小さなボールを器用に操って遊んでみせるお姉さんの真似をして、小さな子ども達も盛んに挑戦していました。日本のおはじきとお手玉を合わせたような遊びです。

「Catch the Fish」は、アメリカの魚釣りゲームです。目隠しをして黒板に貼られた魚を釣るのが難しいです。しかし子ども達はチャレンジ精神が旺盛で、たくさん子ども達が挑戦してくれました。目隠しして、釣竿代わりにペンを握る子ども達の後ろで、ゲーム担当のお兄さんの優しい誘導の声が、とても頼もしかったです。



「国際交流フォーラム」の「外国人の主張」のコーナーでは、FICECから吉井ジュリエッタさんと、関ニーランティーさんが発表しました。考えさせられたり、教えられたりする素晴らしい内容の主張でした。おふたりのスピーチを紹介します。



外国人の相談にのるボランティアを これからも続けます

吉井ジュリエッタ

皆さん、こんにちは。私は、吉井ジュリエッタといっています。日本に暮らすようになって19年になりますが、外国人として暮らすことは、簡単な事ではありませんでした。とても強くなければ違った環境では生活できません。今までの日本での生活を振り返ると、悲しかった事、辛かった事、良かった事、そして幸せに感じた事などがあります。今日は、みなさんに話を聞いてもらい、私の感じた事を伝えることができれば嬉しいです。

【まず、悲しかった事から話します。】

結婚して1年後、フィリピンの運転免許証を書きかえようと思ひ、主人と一緒に鴻巣の運転免許センターに行きました。すべての書類を用意して係官に見せましたが、係官は私の免許証を見るなり、これは偽物だと言いました。「えっどうして？ どうしてそんなことを言うの？」私は驚いて、「これはフィリピンの運転免許センターでとった私の写真ですよ。」と言ひ返しました。でも、信じてもらえませぬ。免許証は買ったのではないかと、疑われました。あまりの言葉に傷つき、涙がとまりませぬでした。

フィリピンの何人かの人達が、そのような行為をしたことがある事は、残念なことです。

でも、一生懸命生活している私達にとっては、同じように思われることは、口惜しいことです。私がフィリピン人でなかったら、こんなに見下した扱ひは受けなかつたことでしょう。

【次につらかつた事を話します。】

ある秋の日、当時5歳だつた息子を連れて、本屋で開かれるイベントに参加する予定でいました。

本屋の住所やビルの名前を確かめながら行きました。私は早く2階に上がらなくてはと思ひ、とても急いでいました。ですから、疑うこともなく本屋のドアを押しました。

そうしたら、突然非常ベルが鳴り出し、赤いランプが点滅して止まらなくなりました。本屋は当日閉まっております、イベ

ントは近くの会場に変更になつた事を、その時は知りませぬでした。悪いことに、このビルのオーナーが、道路脇の車の中から私がドアを押したことを見ていました。彼は、車を飛び出して来て私を怒りました。「何をしているんだ！」

私は、ありのままを話しました。でも信じてもらえず、警察を呼びました。警官が二人やって来た時には、気が動転して涙ぐんでしまいました。どうしてオーナーは、警察なんかに電話したのかと思うと、死にそうなくらい怖くて震えてしまい、どうしたらいいのか分からなくなっていました。ドアは、どこも壊れていません。二人の警察官のうち一人の態度は横柄でしたが、もう一人はとても親切でした。

彼らは、私にたくさんの質問をし、在留カードを確認したり住所を聞いたりしました。そして優しい警察官は私の説明を理解してくれて、家に帰るように言ひました。その時息子にあめをくれました。

帰り道、電車の中で、息子に怖い目に合わせた事と、母の泣き顔を見せた事を謝りました。私は、今でも優しく話を聞いてくれたおまわりさんに感謝しています。

【最後に幸せな話しも聞いてください。】

結婚後4年目にして子どもを授かりました。

私は、ずっと子どもが欲しかつたです。主人が仕事に出かけてしまうと、いつも一人ぼっちでした。だから、子どもを授かるように、よい医者を探したりして努力をしていました。

私の友達が、東京のいい産婦人科を教えてくださいました。彼女はその病院のおかげで、女の子が生まれました。私たち夫婦も病院に通ひ始め、1年もたたないうちに子どもができました。担当のお医者さんに、あなたは運がいいねと言われました。

これが私の人生の中で、一番幸せな経験です。

これからは、同じフィリピンから日本に来た人達が、私と同じように少しでも幸せだと感じる時が持てるように、助けたいと思ひます。ふじみの国際交流センターで、フィリピンの人たちの相談にのるボランティアをこれからも続けていくつもりです。

日本とスリランカの架け橋になりたい

関ニーランティ



皆さん、こんにちは。私の名前はニーランティと申します。スリランカから来ました。

私の国はインド洋に浮かぶ小さな島でスリランカ民主社会主義共和国と言います。昔はセイロンと呼ばれ、今でもセイロン紅茶が世界中で有名です。

スリランカの大きさは北海道より小さくて九州より大きいです。人口は2000万人くらいで、4つの民族が住んでいます。言葉も3つあります。多くはシンハラ語を話すシンハラ人、タミル語を話すタミル人やイスラム教徒のムスリムなどがいます。宗教は仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教などがあります。

スリランカは社会主義なので、学校や病院にお金はかかりませんし、学校の制服も無料で支給されます。女性の先生はサリーと言う民族衣装を着て授業をします。学校の授業は朝7時半から始まり、昼1時半には終わりますが、1日8科目もあり休憩は全部で15分間しかありません。日曜日には、お寺の学校に行きます。その時は白い服を着て行きます。お寺の学校では仏教の事や道徳を勉強します。日本の仏教とは少し違いますが、その時習った事は今でも役に立っています。

スリランカの主食はお米で、カレーと一緒に食べます。日本のカレーライスとはぜんぜん違います。スリランカのカレーはココナッツミルクをベースに色々なスパイスを使います。ジャガイモはジャガイモのカレー、お肉はお肉のカレー、お魚はお魚のカレーと、それぞれ入れるスパイスや味付けが違い、色々な種類のカレーがあります。1回の食事で少なくとも3つのカレーを用意します。別々のお皿に盛ったそれぞれのカレーをご飯の上に少しずつのせて、手でまぜ合わせて食べます。

お正月は、1月1日ではありません。4月12日から14日の間に行われます。日時はその年の占いで決まりますが、いつもお米の収穫のあとがお正月です。

初めて日本に来た時、大変だったことがいくつかあります。日本には冬がありますが、私の国には夏しかありません。寒いことは今でも大変です。でも、冬があるおかげでお風呂が好きになりました。私の国では水のシャワーや井戸や川で水を浴びるので、お湯につかることは最初は慣れなかったけど、今は好きになりました。

その他大変だったことは、言葉がわからなかった事です。日本人はあまり英語を話さないなので、最初は友達がい

なくて寂しかったです。

でも、FICECで日本語の勉強を始め、たくさんの人達と仲良くなりました。また色々なイベントに参

加して多くの経験が得られ、日本に住むのがとても楽しくなりました。

来日した2年間の間で一番大変だったのは、病気になった事です。1年前の頃は、私はガンで入院していました。人生で初めて手術をして入院をしました。病気も苦しかったです。言葉の問題が大変でした。お医者さんや看護師さんの言うことが、わからなくて困ることが多かったです。お医者さんや看護師さん、他の患者さん達と話ができるように一生懸命に努力をしました。そのおかげで日本語が上手になりました。

手術は成功しましたが、その後6ヶ月くらい抗がん剤治療をしました。その抗がん剤の治療はとても大変で、だるくて、気持ちが悪い日が続きました。髪の毛もまつげも眉毛もなくなり、毎日何もしたくありませんでした。それでも、何とか治療が終わり、今日こうして皆さんの前でお話ができるようになったのは、私を支えて下さったお医者さんや看護師さん、家族やFICECの皆さん、友達のおかげと思っています。皆さん、どうもありがとうございました。

最後に元スリランカ大統領である、ジャヤワルダナさんのエピソードを紹介します。

ジャヤワルダナさんは1951年にセイロン代表として第2次世界大戦後のサンフランシスコ講和会議に出席し、敗戦国である日本の処遇を決める議論の中、会議の演説で「憎しみは憎しみによって止むことなく、愛によって止む」という仏陀の言葉を引用し、日本に対する賠償要求を放棄しました。

それは各国の賛同を多く得られ、日本が国際社会に復帰できる道筋を作りました。また元大統領は、自分が死んだら目の不自由な人に対し、片目をスリランカ人に、もう片目は日本人に移植して欲しいとの遺書を残しました。実際に片目は長野県に住む日本人に角膜移植されたそうです。

私もジャヤワルダナさんのように日本とスリランカの架け橋になれるよう、これからも頑張ります。

東京入国管理局へようこそ？

藤林 美穂

外国人のビザ手続を手伝う仕事をしていると、避けては通れないのが入管、入国管理局です。一般的に、日本人が入管に行くことはあまりないし、入管内部は撮影禁止なので、報道などで目にする機会もほとんどないのではないのでしょうか。しかし、外国人にとっては、日本語ができなくても何でも、まず行かなければならない場所です。

入国管理局の出先機関である地方出張所は全国各都道府県にあります。横浜などくに外国人の多い都市部には「支局」があり、さらに関東や東北などエリアごとにそれをまとめる地方入国管理局がおかれています。関東だったら、たとえば群馬や埼玉には出張所は一カ所だけですが、この出張所では扱いが難しいケースなどは、東京入管が管轄することになります。また、当然と言えば当然ですが、成田などの国際空港にも入管が置かれています(空港の入管では申請の受付はしていません)。

私が仕事でよく行くのは品川にある東京入管です。埋め立て地の倉庫街にそびえ立つ東京入管のビルは、上から見ると十字型の不思議な形をしています。これは建物上部がオーバーステイで捕まった人たちの収容施設になっていて、その管理(監視)の都合からこのような形になっているそうです。

私はふだん東武伊勢崎線を使うことが多いのですが、北千住の手前、小菅で車窓から見える東京拘置所は、この入管のビルにそっくりな形をしています。同じ人が設計した、という話を先輩の行政書士から聞いたことがあります。囚人監視のための建築様式なのでしょう。東京入管が海沿いに建てられたのも、収容されている人の逃亡を防ぐためだ、と言われています。東京入

管の建物の形自体が、外国人をフレンドリーには受け入れない、という日本政府のメッセージになっているようなものです。この建物には私もあまりいい印象を持ってないのですが、そこで自分の在留の可否を決められる外国人にしてみれば、できれば行きたくない場所ナンバーワンだと思います。

入管での手続きが必要な外国人は、行政書士に一切をまかせて、自分が入管に直接行かないでも済む方法もあります。でも、日本に在留できるかどうかの瀬戸際にある人たち、たとえばビザがない人たちは、その状況を何とか打開したいという場合、誰かに代理を頼むことはできず、自分で出頭しなければなりません。

行きたくないけれど、行かなければならない場所。日本に在留できるかどうかの明暗が分かれてしまう場所。それは、生身の人間が素手で国家と直接向き合う場所でもあります。外国人に同行して入管に行くたびに、これをそのまま映像にしたらドキュメンタリー映画ができるなあ、と思うことがよくあります(実際には撮影できませんが…)。これから何回か、知られざる入管ワールドについて書いてみたいと思います。



● 筆者紹介

行政書士(ライフ行政書士事務所)。NGOで働いたり、フィリピン人支援団体でボランティアしたりした後、行政書士開業。毎日いろいろな国から来たいろいろな人の話を聞いて、「在日外国人」の多様性に、びっくりすることの連続です。

私の恩返し

長谷川 雅恵

この閉塞感はなんだろう・・・今から約10年前、私はメキシコシティでそう思っていました。約6年間暮らしたメキシコで、スペイン語は一通り話せるし、友達もたくさんいるのに、なぜ？ほどなくして気付いたのは、「やっぱり私はその国の人間じゃない」と思い知らされることがストレスだったんだ、ということでした。ささいなことで「外国人だから不当な扱いを受けているんじゃないか」と疑ってしまう、様々な考え方の違いを、どこかで受け入れられない・・・当時の私は息がつまりそうだとよく思ったものです。そんな恩知らず(?)な私なのに、まわりのメ

キシコ人たちはいつも親切で、困った時には必ず助けてくれました。

「今はしてもらってばかりだけど、そのうちお礼するからね。」ある日私は、1番お世話になった人にそう言いました。するとその人は「私のしたことあなたに感謝しているなら、私に恩返ししようなんて思わないで、国に帰ったら同じことを他の人にしなさい。それが1番のお礼だと思ってるわ。」と言ったのです。

今、私がセンターでしていることが、少しはお礼になっていると良いのですが。

見送りの三振より 空振りの三振

パート II

石井 十エ

〇月〇日

子どもの親権を取りたいという日本語が話せない日本国籍の女性と、都内の弁護士事務所に出かけた。彼女はフィリピンで日本人の父とフィリピン人の母との間に生まれ2つの国籍があり、20歳で日本国籍を選び初めて来日した。苗字も名前も日本人ののだが、字も読めないし十分話もできない。

最近、彼女のような日本国籍の外国人？からの相談が増えている。FICECに毎日勉強に来ているA君も日本国籍。2歳の時両親が離婚し、フィリピンの祖母に育てられていた。母が再婚して13歳で日本に呼び寄せられたが、「おはよう」のひとつも覚えていなかった。「日本国籍である以上これからずっと日本で暮らす」という。ならば就職をして税金が払えるようになってほしい。そんな彼のためにFICECのスタッフは一丸となって指導に当たっている。こんな人がたくさんいるはず。文科省でも外務省でもどこでもいいから、日本語指導の必要性に早く気が付いてほしいと心から願っている。

〇月〇日

厚生労働省の人口動態調査で「結婚件数の16組に1組が配偶者のどちらか一方が外国人である」と発表されたのが2006年だった。しかしそのこ

ろと比べると、FICECを訪れる生活相談者やシェルター入居者がだいぶ様変わりしてきた気がする。どうしてなのか知りたくて富士見市国際フォーラムを機に国際結婚について調べてみた。

富士見市在住の日本人と外国人の結婚件数は499組。それに対して外国人同士の結婚は1.3倍の624件あった。日常用語が日本語でない家族が増えているのがわかる。問題も多いようで、2012年4月から昨日までの1年半にシェルターで保護した11組のDV被害者のうち7組は外国人同士の夫婦だった。

法務省の統計からわかるように在住外国人の半数は永住者であり、定住者や日本人配偶者を含めると約7割が半永久的に日本に在留する資格を持っている。彼らには日本人と同等の権利と義務が与えられ、結婚の自由も社会保障を受ける権利もある。

私たちは今まで、言葉や制度や心の壁をなくして多文化共生を進めていこうと活動してきたが、それだけでは済まない時代に入っている気がする。どこへどう訴えたらいいのか。ため息ばかり出る。でも明日は同窓会に行く予定。リフレッシュしてそれからまた考えよう。

「学ぶということ」

子どもの健全育成支援専門員 松浦 康介

多文化共生の活動に携わりたいと思い、当時上福岡駅前にあったふじみの国際交流センターに伺わせていただいた日から、早いもので5年の歳月が過ぎました。その日、たまたまいらした国際子どもクラブのスタッフの方に、自分の住む三芳町で、外国にルーツを持つ子ども達に勉強を教える集い（現在の子ども学習広場）を教えていただいたことがきっかけで、今に至るまでその活動に参加しています。当時中学生だった子ども達は、社会人となり、やんちゃな小学生だった子ども達は、この春に高校受験を控えています。私自身も、大学の夜間部に通う社会人学生から、高校の教員を経て、精神障がい者のソーシャルワーカーの卵となるなど、めまぐるしい変化を遂げていますが、夏の快晴の空の下、期待と不安に胸を躍らせながら、初めてセンターを訪れた日を思い返すと、月日が経つのは本当に早いものだとことを実感します。

なぜ、外国にルーツを持つ子ども達に勉強を教えたいと思ったのかについて、明確な理由はありませんが、その動機を思うとき、私の人生の中でひとつの転機となった本が思い出されます。大沢敏郎さんという方が書いた『生きなおす、ことば（太郎次郎社）』という本です。大沢敏郎さんは、日本の3大ドヤ街の1つと呼ばれる横浜市寿町で、文字の読み書きを「様々な理由により、出来なくさせられた」日雇い労働者や、在日朝鮮人などに、無償で読み書きを教える「寿識字学校」

を約30年間開催してきました。この学校では、必要な文字を一通り教えた後は、細かい文法の間違ひには一切手をつけず、本人の思うままに文章を書き、それを皆の前で読み合うという活動が行われました。こうして書かれた文章は、漢字も「てにをは」も間違った文章ばかりですが、私たちが「学校教育の中で、知らず知らずの内に削ぎ落とされてきた」瑞々しい感性と、学ぶことへの強烈な喜びが宿っており、大沢さんを始めとする「読み書きのできる」人々が、その言葉の力に圧倒され、自らの辿ってきた学びと出会い直して行く様が記されています。

この本に並々ならぬ衝撃を受けた私は、実際にこの場を見てみたいと思い、この寿識字学校に通うようになったのですが、当時既に健康状態を悪くされていた大沢先生は、それから1年を待たずして帰らぬ人となりました。本で読む印象よりも、お酒と冗談が大好きな方でしたが、他者との関わりや学びの姿勢という点については、一切の妥協が無い、厳しい方でもありました。この本を読み、大沢先生に出会っていなければ、今の私の活動は無かったと思いますが、同時に、子ども達や、私が仕事で関わる精神障がい者の方達や、「学び」という行為そのものへの見方も、全く違ったものになっていたと思います。今なお自分の関わりに満足することはありませんが、そんな時も、心のどこかで大沢先生の視線を感じながら、「笑われないようにしなくては」と思う自分がいます。

子どもの健全育成支援：FICECが埼玉県社会福祉課の業務委託を受け、子どもの健全育成支援専門員の派遣を行い、地域での生活や就学が困難な児童・生徒の生活指導と学習支援を行っています。

ふじみ野学童フェスティバルに参加しました

10月13日(日)に、東久保中央公園(カリヨン広場)において、ふじみ野学童フェスティバルが開催されました。FICECはくじ引き、輪投げ、射的、ポップコーンのお店を出し、たくさん子ども達が遊びにきてくれました。

店番を務めたのは、スタッフの家族や国際子どもクラブで勉強をしている外国籍の子ども達、そしてインターンシップでFICECに来ていた大学生。

「いらっしやいませ!」「ポップコーンはいかがですか?」「ありがとうございました!」と元気よく声をかけるその様子は、店番初体験とは思えない立派な姿でした。



【くじ引き】



【ポップコーン】



【射的的的は子ども達の手作り】

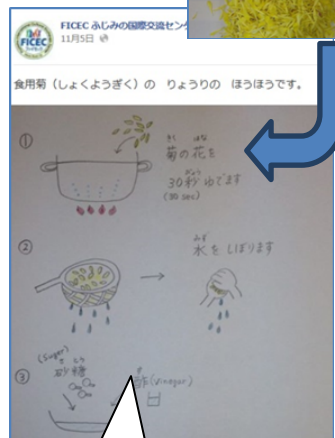
Facebookを見れば、FICECの“今”が分かります!

FICEC facebook

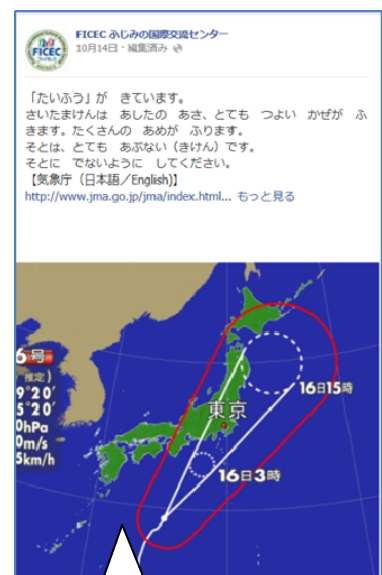
検索



JICAの招聘で日本に来ているミャンマー、フィリピン、ベトナム、パキスタン、インドの警察官と反人身売買の仕事をしている職員の皆さんが来所しました。



食用菊の料理の仕方を、シンプルなイラストで紹介しました。



台風情報を、やさしい日本語でリアルタイムにアップしました。

センターの活動をご支援ください 会員・賛助会員・寄付のご案内

●活動を担う会員……正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

●センターを財政的に支える会員……賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々 ご支援ありがとうございます

●2012年4月～(50音順・敬称略)

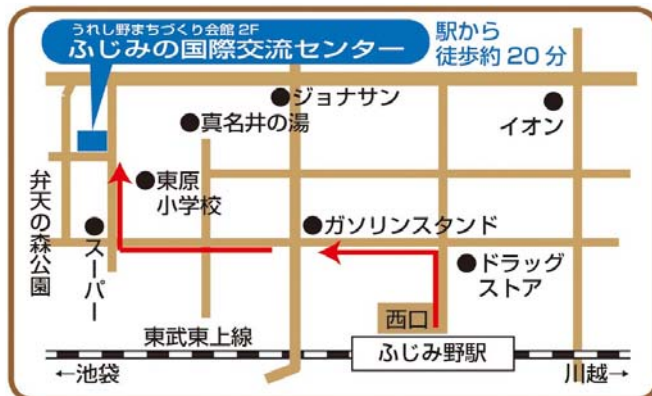
阿澄康子、穴沢エミリン、新井順子、新井良司、荒田光男、有山高司、イオン(株)大井店、石井ナナエ、伊藤真弓、岩田仁、上島直美、上原美樹、太田原裕、大西文行、小熊千寿子、小原知子、葛西敦子、加藤久美子、神田順子、国際ソロプチミスト埼玉、木場ひろみ、駒形一夫、佐藤義治、白砂正明、菅山修二、鈴木譲二、関ニーランティ、多ヶ谷實、武田和子、立麻医院、立麻肇子、田中つや子、寺村璧如、戸塚咸子、内藤忍、中嶋恵津子、中村禎作、中山明子、西川由比子、沼田伊玖俊、野沢弘子、野辺頼之、萩原千代子、長谷川雅恵、長谷川正江、浜本由里子、東入間地区遊技業防犯協力会、FICEC英語教室参加者一同、藤巻則幸、彦由章、松浦康介、森和也、山崎友理、山畑博子、匿名希望3人

外国人生活相談 無料

月曜日～金曜日 10:00～16:00

電話：049-269-6450

困っている外国人の方がおられたら
センターをご紹介ください。



サービス料金表

ふじみの国際交流センターでは、センターの設備や、会員・スタッフの技能により、様々なサービスを行っております。ぜひ、ご利用ください。

種別	料金	対象
印刷機	マスター（製版代） 1枚100円 印刷代1枚1円	市民団体 個人
コピー機	1枚10円	
製本機	A4判1冊50円	
折り機	無料	

種別	内容	料金
講師派遣	国際理解教育	3,000円＋交通費
	外国料理教室	5,000円（材料費別途）
	語学教室	内容・予算に応じて相談
企画・運営	国際交流・国際理解に関するイベントや研修の企画・運営等	
編集・出版 ホームページ	多言語による情報誌・ガイドブック、 ホームページの制作	1枚5,000円
	日本語によるチラシデザイン（A4判）	
翻訳	英語、中国語、韓国語、 ポルトガル語、ロシア語、 タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	婚姻関係、ビザ 申請、履歴書 A4判1頁、 40字・30行 1枚1,500円
	その他の文書	A4判1頁、 40字・20行 1枚3,000円より
通訳	英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、 ロシア語、タガログ語、スペイン語、 タイ語、ベトナム語	半日5,000円より＋交通費

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0053 埼玉県ふじみ野市大井2-15-10

うれし野まちづくり会館2階

Tel: 049-256-4290 Fax: 049-256-4291

ボランティア活動に、ご参加ください

ふじみの国際交流センターでは、日本語指導をはじめ、外国籍市民との交流・手助けをするボランティアを募っています。ぜひ、電話またはホームページから、お気軽にご連絡ください。